

## 《VI 研究》

【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

〔平成19年度～21年度 専任教員の研究実績表〕

学科等名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作 数	論文 数	学会 等発 表数	その 他			
こども 学科	渡辺 敏正	教授				3		有	県市各種委員
	鈴木 勝雄	教授				6	有	有	県市各種委員
	小山 一乗 (22.3退任)	教授	19	4	8	3	有	有	国県市の各種委員、団体講師
	風間則比古 (22.3退任)	教授		2				有	学会誌編集委員長
	廣田 誠 (22.3退任)	教授				9		有	地域青少年指導
	森 静子	教授	5	1		56		有	県市町村教育保育講演活動
	新井れ江子	教授		2		8		有	県内教育委員会等講演活動
	川島 良雄	教授	1	3				有	市各種委員
	武井 博	准教授		1				有	関東地区球技団体委員長他
	木村たか子	准教授		3	1	1		有	県市等各種委員・講師
	吉川由香子	講師	1		3	8	有	有	小学校演劇指導
	乙部はるひ	講師	2	2				有	市各種委員
松田 侑子	講師		3	5			有	スクールカウンセラー	
参考： 22.4 着任 専任教員	木全 晃子	講師		7	7		有		
	濱田 祥子	講師		2	1				
	塚越亜希子	助教							

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

毎年発行される研究紀要において研究の成果を公表している。その内容は、従来は、学術傾向の濃い論文が中心であったけれども、教員養成課程に加えて保育士養成課程開設に伴い、保育現場の事例研究が投稿されるようになった。これにより、理論と実践との架橋論の一層の充実化が期されるようになった。

なお、今後の課題としては、紀要には投稿していないけれども、広く研究的活動をしている教員の研究活動もあり、今後は、全ての教員の活動状況の公表について、いわゆる彙報等の形態で、実績状況を掲載していくことの可否の検討が課題である。

**(3) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況(件数)を一覧表にして下さい。**

平成19～21年度は、科学研究費補助金の応募はなかった。

[外部研究資金の申請・採択状況(平成19年度～21年度)]

外部資金調達先等	19年度		20年度		21年度	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金	0		0		0	
その他の外部研究資金	0		0		0	

**(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。**

授業科目の担当教員の授業担当科目に関する学会等への参加は、研究動向の情報交換をする機会として常に担保されている。また、教育実践の経緯・成果に関する意見交換・検討する機会としては、常に、折に触れ行われている。教員全体で、常に全ての学生に対して見つめていく態勢を取っている。

「教育実習支援室」「保育実習支援室」ではとくに、密に報告と検討を行っている。

【研究のための条件について】

**(1) 研究費(研究旅費を含む)についての支給規程等(年間の支出限度額等が記載されているもの)を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の決算書から研究に係る経費を項目(研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等)ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。**

研究費については、「個人研究費」に関する規程により、各教員の申請によって助成される。助成の対象は、本学の研究の発展と教育向上に寄与するもので、当該教員が現に担当し、または将来担当する予定の研究領域、またはそれらに関連する個人研究に対して助成される。

[平成21年度の助成金額]

職 階	研究費	研究旅費	合計
教 授	27.0万円	9.0万円	36.0万円
准教授	27.0万円	8.1万円	35.1万円
専任講師	27.0万円	7.2万円	34.2万円

**(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。**

教員の研究成果発表の場として、本学では毎年定期的に「研究紀要」を発行している。21年度は、第54集目の発行となり、投稿原稿は、全部で8点である。うち、専任教員が7名で7点、非常勤教員が1名1点である。

投稿については「関東短期大学学術図書刊行委員会」の応募案内に基づき、投稿者を募っており、本学に所属する専任及び非常勤講師の全教職員が発表の機会となっている。

**(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成21年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。**

教員から、年度毎に教育研究用機器・備品・図書等の購入希望をとり、学科で検討のうえ、逐次購入し充実を図っている。

**(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。**

学生指導を密に行いながら、対学生教育方法を研究の対象とするに格好の研究室環境である。いわゆる、なかば壁のない教員室・研究室設計になっている。教員研究室は、3号館2階に、大部屋が2室あり、そのうち一室の一部は、非常勤講師用としている。

各教員の空間は、ブース仕切りであり、その仕切り壁は天上まではいかない仕切りである。学生に開かれた形態を取り、オフィス・アワーに親和的關係がスムーズに展開するように配慮されている。

学生相談や学習指導などに供するためにミーティングルームが2室設置されている。

また、保育の演習室は、隣接して担当教員用の部屋が1室設置されている。

**(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。**

教員の研修日・研修時間については、時間割作成の際等に配慮している。学園規程により、専任教員は週4日以上勤務日を求められ、週間の教員一人平均の研修日は平成21年度で1.5日となっており、研究室環境からして、学内において研究する教員と、学外・自宅等で研究する教員とに大別される。

【特記事項について】

**(1) この《VI研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。**

- ① 研究の中心を「教育活動の実践的研究」にする教職員が少なくない。保育士養成課程設置以後まだ日が浅く、卒業生の進路状況を追跡し、フィードバックしながら、教育・研究指導の改善検討を緊要とする課題意識があるからでもある。今後は、実践場面での問題解決のための理論的研究の蓄積が求められる。
- ② 研究室環境については、本学の経営理念及び教育理念から醸成されるものであり、他機関との短絡的な比較は馴染まないと思慮される。

**(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。**

なし。

- 〈参考資料〉
- 1. 教員個人の研究業績書（過去3ヶ年）
  - 2. 教員の研究活動について公開している印刷物等（過去3ヶ年）
  - 3. 研究費（研究旅費を含む）等の支給規程等（規程がない場合は実績の一覧表）
  - 4. 過去3ヶ年の研究紀要・論文集